

臨床調査個人票を用いた難病疫学像の解明： 計画の検討

中村 好一（自治医科大学保健科学講座公衆衛生学部門）
稲葉 裕（順天堂大学医学部衛生学教室）

要 約

1999年度から2001年度の3年間にかけて、臨床調査個人票を用いた疫学研究が軌道に乗らなかった理由を総括し、今後の展望を示した。

キーワード：臨床調査個人票、難病、疫学像

特定疾患治療研究事業により医療費の公費負担を申請する難病患者より提出された臨床調査個人票を用いて、難病の疫学像を明らかにすることを試みた。

過去3年間においても臨床調査個人票を用いた難病疫学像の解明を試みたが、不十分な結果となった。その理由として、（1）各都道府県から研究班への臨床調査個人票の受け渡しが円滑に行われなかったこと、（2）初期の臨床調査個人票の様式が、厚生省（厚生労働省）の提案にもかかわらず、統一されておらず、都道府県間で違いがあり、入力が難しかったこと、等が考えられた。

2001年度からは臨床調査個人票の様式が全国で統一され、都道府県で入力された磁気情報が研究班に渡ることとなった。これをもとに、疫学研究への利用可能性を検討した結果、以下のような点が可能性として示された。

a. 疫学像の解明

当該難病の疫学像（性・年齢分布、地域分布、など）が明らかになる。臨床調査個人票で収集している危険因子に関する情報を解析することにより、その分布を明らかにすることも可能である。たとえば、クロイツフェルト・ヤコブ病については厚生省が実施していたサーベイランスの調査票を解析することにより、疫学像を明らかにし

ている。詳しくは厚生省特定疾患調査研究事業「特定疾患に関する疫学研究班」（班長：大野良之名古屋大学教授）平成10年度研究業績集98～99ページ参照。同疾患の臨床調査票はサーベイランスの調査票とほぼ同一であり、このような解析が可能となる。

b. 臨床疫学像の解明

特定の症状の出現頻度などの臨床疫学像が明らかになる。これを性・年齢別、重症度別などに比較することも可能である。

c. 疫学像、臨床疫学像の時代的変遷

毎年情報を収集・蓄積することにより、疫学像、臨床疫学像が変化するかどうかについて、検討が可能となる。

d. 予後の観察

受給を継続している患者は生存していることが明らかであり、予後の観察の一助となる。継続申請しなかった者について更に調査を行えば、本格的な予後調査となる。

e. データベースとしての活用

更に調査を行う（たとえば症例・対照研究など）場合の患者リストとして使用する

ことが可能である。また、臨床調査票に記載された危険因子については、適切なコントロールを設定して、コントロールの情報収集を行うだけで、症例・対照研究が成立する。

以上のような活用の可能性が示されたため、来年度以降、これらの項目の実行可能性を検証しながら、疫学像の解明を行う予定である。

Challenging to reveal epidemiologic features using data of patients receiving the public aid for the intractable diseases

Nakamura Yosikazu (Department of Public Health, Jichi Medical School), Inaba Yutaka (Department of Epidemiology, Juntendo University School of Medicine)

With using the data of intractable disease patients with the public aid, potential epidemiologic observations were discussed. There were 5 possibilities, and the feasibility will be studied in the next year; (1) observation of the epidemiologic features of the diseases, (2) observation of the clinical epidemiology of the diseases, (3) observation of chronological changes of the epidemiologic and clinical epidemiologic features, (4) observation of the prognosis of the disease, and (5) using as a database.

key words: intractable disease, epidemiology, public aid.

地域保健事業報告（現地域保健・老人保健事業報告） を利用した特定疾患医療受給者の実態把握（解析計画）

太田 晶子、仁科 基子、柴崎 智美、瀧上 博司、永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

要 約

特定疾患の疫学に関する研究班は、過去4回（1984年度、1988年度、1992年度、1997年度の特定疾患医療受給者を対象）全国悉皆調査を行い、わが国の受給者の実態を報告してきた。1997年度の受給者調査から5年が経過しており、受給者の実態を現時点で把握することが必要と考えられる。本計画は、地域保健事業報告の受給者情報を利用し、現在の受給者の基本的な記述疫学的特徴およびその年次変化を明らかにすることを目的とする。資料として、地域保健事業報告で厚生労働省に収集されている都道府県別、性別、年齢階級別、疾患別の受給者数の情報（磁気データ）を所定の手続きを経て入手する。調査対象期間は1997～2000年度までである。疾患別・性別・年齢階級別・都道府県別の受給者数の集計を行う予定である。

キーワード：特定疾患、医療受給者、地域保健事業報告

背景と目的

特定疾患の疫学に関する研究班は、過去4回（1984年度、1988年度、1992年度、1997年度の特定疾患医療受給者を対象）全国悉皆調査を行い、わが国の受給者の実態を報告してきた。2001年度からは、医療費公費負担受給申請時に提出される臨床個人調査票が電子入力されている。この情報の利用により、受給者の記述疫学的特徴、受療状況などの把握が容易になることが期待されている。

一方、厚生労働省は地域保健事業報告（調査）で、1997年度から毎年、性別、年齢階級別、疾患別の受給者数を保健所ごとに収集し、性別、都道府県別、疾患別の受給者数を報告している。1997年度地域保健事業報告から得られた受給者数、性別、都道府県別、疾患別の受給者数は、1997年度受給者調査のそれとほぼ同様の傾向を示したことから、地域保健事業報告の受給者情報は、受給者の基本的特性を観察する簡便で有用な資料と考えられた。また、年齢階級別の情報（収集されているが報告はされていな

い）を利用し、年齢階級別の集計解析も行えば、さらに有用な疫学的特性を明らかにすることができると思われる¹⁾²⁾。

1997年度の受給者調査から5年が経過しており、受給者の実態を現時点で把握することが必要と考えられる。本計画は、地域保健事業報告を利用し、性別、都道府県別、疾患別だけでなく新たに年齢階級別受給者数の情報を入手して、わが国における現在の受給者の基本的な記述疫学的特徴およびその経年変化を明らかにすることを目的とする。

方法

資料として、地域保健事業報告で厚生労働省に収集されている保健所別、性別、年齢階級別、疾患別の受給者数の情報（磁気データ）を所定の手続きを経て入手する。対象期間は1997～2000年度までである。疾患別・性別・年齢階級別・都道府県別の受給者数の集計を行う。作成予定表は表1のとおりである。

表 1. 集計予定表

疾患別集計：

表 性・年齢階級別、受給者数、受給者数性比、受給者数比（例：2000/1997年度）

表 性・年齢階級別、人口10万対受給者数、受給者数性比 *

表 都道府県・性別、標準化受給者数比

（*については年次推移の観察も行う。）

進捗状況

本研究班を通じて厚生労働省から、1997～2000年度の受給者数の情報（磁気データ）を得たので、今後解析を進める予定である。

受給者調査の必要性についての考察. 厚生科学研究特定疾患調査研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班 平成13年度研究業績集 2002: 172-176.

2) 太田晶子, 仁科基子, 柴崎智美, 他: 地域保健事業報告における特定疾患医療受給者情報の利用. 厚生指標 (印刷中).

文献

1) 太田晶子, 仁科基子, 柴崎智美, 他:

Descriptive epidemiological study of intractable disease patients receiving financial aid for treatment based on Report on Local Health Activities (Planning of the analysis)

Ohta Akiko, Nishina Motoko, Shibasaki Satomi, Fuchigami Hiroshi, Nagai Masaki (Department of Public Health, Saitama Medical School)

The research committee of Epidemiology of intractable disease (the Ministry of Health and Welfare, Japan) conducted nationwide survey of intractable disease patients who received financial aid for treatment in 1984, 1988, 1992, and 1997. To elucidate the current fundamental epidemiologic characteristics of intractable diseases and those chronological changes, we planned to analyze the data of patients receiving financial aid for treatment in the Report on Local Health Activities, which were conducted by the Ministry of Health and Welfare of Japan in every year since 1997. We will observe the number of patients by diseases, sex, age, and residential prefecture.

Key words: Intractable diseases, patients receiving financial aid for treatment, report on local health activities

医療受給者数の将来推計

澁上 博司、仁科 基子、太田 晶子、柴崎 智美、
永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

要 約

過去4回行われた特定疾患医療受給者全国調査結果を使用して、公費医療対象疾患のうち26疾患の2010年までの受給者数を推計した。この結果、受給者数は1997年度に358,023人であったのが2010年には633,363人にまで増加することが推計された。また、1997年度の上位三疾患は男が潰瘍性大腸炎、パーキンソン病、後縦靭帯骨化症、女が全身性エリテマトーデス、パーキンソン病、潰瘍性大腸炎であったが、2010年度には男が潰瘍性大腸炎、パーキンソン病、クローン病、女がパーキンソン病、全身性エリテマトーデス、潰瘍性大腸炎に変わるものとみなされた。今回の推計は主として全国調査結果を使用して行ったものであるが、今後の受給者の動向を踏まえながら補正した推計値を検討していくことが必要である。

キーワード：特定疾患、全国調査、医療受給者、将来推計

研究目的

わが国の難病対策は1972（昭和47）年にまとめられた「難病対策要綱」に基づいて開始され、今日では①調査研究の推進、②医療施設の整備、③医療費の自己負担の軽減、④地域における保健医療福祉の充実・連携、⑤QOLの向上を目指した福祉施設の推進を5本柱として事業が展開されている。この事業に基づいて実施されている特定疾患の医療費公費負担を受けるため、都道府県より受給者証の交付を受けた件数は、1974（昭和49）年度に17,595件であったが、毎年増加し、2001（平成13）年度には504,699件に達している。受給者の将来推計を行うことは、公費医療費制度の継続、医療機関の整備等の難病対策を推進する上で、重要な課題である。

本研究は、過去4回の特定疾患医療受給者全国調査結果を用いて、今後の難病対策に資する医療受給者数の将来推計を行うことである。

研究方法

(1)対象疾患

医療受給者全国調査対象疾患のうち、過去4回（84年度、88年度、92年度、97年度）の調査で観察可能であった26疾患を対象とした（表2参照）。

(2)資料

人口対新規受給者数は過去4回の全国調査結果¹⁾⁴⁾を使用した。年度を越えて継続給付を受ける受給者の割合は、昨年度の研究で使用した算出方法⁵⁾を用いて求めた。将来の人口は日本の将来推計人口（平成14年1月推計）⁶⁾の中位推計値を使用した。1998年、1999年、2000年については実際の値を使用した。また、推計の精度を向上させるために地域保健・老人保健事業報告⁷⁾から得られる特定疾患医療受給者証所持者数（性別、疾患別）を参考とした。

(3)推計の方法

推計は表1に示すとおり、97年度受給者数（性別、疾患別）を基準として使用し、98年度以降は推計した97年度受給者の継続数に新規受給者数、新規

表1. 医療受給者数の推計方法

対象年度	推計方法
97年度	97年度受給者数(全国調査データ)
98年度	97年度受給者の継続数+98年度新規受給者数
99年度	97年度受給者の継続数+98年度新規受給者の継続数 +99年度新規受給者数
00年度	97年度受給者の継続数+98年度新規受給者の継続数 +99年度新規受給者の継続数+00年度新規受給者数

X年度	97年度受給者の継続数+98年度新規受給者の継続数 +99年度新規受給者の継続数+……+(X-1)年度新規受給者の継続数 +X年度新規受給者数

受給者の継続数を順次加算する方法で2010年までの受給者数を推計した。

97年度受給者の継続数は、前述のとおりに昨年度の研究で行ったのと同様の方法で算出した13年間の性別継続率を97年度受給者数に順次乗ずることで求めた。

新規受給者数は、過去4回の全国調査資料から得た人口対新規受給者数の値を用いて回帰直線 $y=ax+b$ を算出し、この式から該当年次の人口対新規受給者数を求め、これに人口を乗ずることで推計した。

新規受給者の継続数は、全受給者の継続率と同様に昨年度の研究で算出した方法を用いて新規受給者の継続率を性別に計算し、これに新規受給者数を乗ずることで求めた。

結果及び考察

対象とした26疾患について算出した全受給者及び新規受給者の性別継続率を表2～表5に示す。全受給者の13年後の継続率は筋萎縮性側索硬化症、ビュルガー病を除く24疾患で何れも女が男よりも高かった。また、全受給者と新規受給者の継続率を比較すると、男では結節性動脈周囲炎、パーキンソン病の2疾患、女ではハンチントン舞踏病の1疾患を除くと、何れも新規受給者の継続率が全受給者の継続率よりも低かった。

1998年から2010年までの推計受給者数を表6、表7、表8に示す。1997年

には男141,540人、女216,483人、合計358,023人であったのが、2010年には男246,276人、女387,087人、合計633,363人に達するものと推計された。また、上位三疾患を性別にみると、1997年は男が潰瘍性大腸炎、パーキンソン病、後縦靭帯骨化症、女が全身性エリテマトーデス、パーキンソン病、潰瘍性大腸炎であったのが、2010年には男が潰瘍性大腸炎、パーキンソン病、クローン病、女がパーキンソン病、全身性エリテマトーデス、潰瘍性大腸炎に変わるものとみなされた。今回の推計結果を地域保健・老人保健事業報告から得られる特定疾患医療受給者証所持者数と比較した結果、概ね一致した状況であったが、劇症肝炎では1998年以降受給者数が極端に減少し、推計値とは異なった推移であった。また、ベーチェット病、スモン、大動脈炎症候群、ビュルガー病の4疾患では、何れも男の新規受給者が2010年以前に負の値となってしまう、疾患によっては近似曲線で表現した推計方法が適切であったかと思われる。今後は受給者の動向を踏まえながら補正した推計値を検討していくことが更に必要であると考えられる。

文献

- 1) 柳川洋, 中村好一, 長谷川央子編: 特定疾患治療研究医療受給者調査報告. 厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班, 1986.
- 2) 柳川洋, 中村好一, 橋本勉, 他編

- ：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1988年度分）その1．基本的な集計解析．厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班，1990．
- 3）永井正規，中村好一，阿相栄子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1992年度分）その1．基本的集計．厚生省特定疾患難病の疫学調査研究班，1995．
- 4）永井正規，瀧上博司，仁科基子，他編：特定疾患治療研究医療受給者調査報告書（1997年度分）その1．基本的集計．厚生科学研究特定疾患対策研究事業 特定疾患の疫学に関する研究班，2000．
- 5）瀧上博司，仁科基子，太田晶子，他：医療受給者の経年変化－リンクデータを用いた集計－．厚生科学研究特定疾患対策研究事業特定疾患の疫学に関する研究班平成13年度研究業績集．2002；150-171．
- 6）国立社会保障・人口問題研究所編：日本の将来推計人口－平成13（2001）～62（2050）年－平成14年1月推計．財団法人厚生統計協会，2002．
- 7）厚生労働省大臣官房統計情報部編：平成12年度地域保健・老人保健事業報告（地域保健編）．財団法人厚生統計協会，2002．

Estimation of the number of intractable disease patients receiving public financial aid

Fuchigami Hiroshi, Nishina Motoko, Ohta Akiko, Shibazaki Satomi, Nagai Masaki (Department of Public Health, Saitama Medical School)

The nationwide surveys of intractable disease patients receiving public financial aid for treatment were performed by the Research Committee of Epidemiology of Intractable Disease 4 times in the past, in 1984, 1988, 1992 and 1997. These data were used in order to estimate the number of patients annually receiving the aid for 26 selected intractable diseases from 1998 to 2010. As a result, the number of recipients in 1997 was 358,023 and that in 2010 was estimated to increase up to 633,363.

Ulcerative colitis, Parkinson's disease and ossification of posterior longitudinal ligament were the top three diseases of male in 1997, systemic lupus erythematosus, Parkinson's diseases and ulcerative colitis were those of female. It was estimated that those diseases will be replaced with ulcerative colitis, Parkinson's disease and Crohn's disease in male, Parkinson's disease, systemic lupus erythematosus and ulcerative colitis in female in 2010.

Since this estimation was based on the data of the nationwide surveys in the past, it is necessary to amend the estimated values referring to recipient's trend in the future.

Key words : Intractable diseases, Patients receiving financial aid for treatment, Nationwide survey, Estimation

表2. 受給者の継続率(男), 疾患別

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(年)
1 ベーチェット病	1.000	0.945	0.893	0.844	0.797	0.764	0.734	0.706	0.679	0.655	0.633	0.612	0.591	0.571
2 多発性硬化症	1.000	0.916	0.839	0.769	0.705	0.656	0.615	0.577	0.541	0.510	0.483	0.458	0.434	0.411
3 重症筋無力症	1.000	0.925	0.856	0.793	0.734	0.689	0.650	0.614	0.579	0.547	0.518	0.491	0.465	0.440
4 全身性エリテマトーデス	1.000	0.934	0.873	0.815	0.762	0.721	0.686	0.652	0.620	0.590	0.561	0.533	0.507	0.482
5 スモン	1.000	0.936	0.876	0.820	0.767	0.728	0.693	0.659	0.627	0.597	0.568	0.541	0.515	0.490
6 再生不良性貧血	1.000	0.886	0.785	0.696	0.617	0.558	0.508	0.461	0.420	0.385	0.355	0.327	0.301	0.278
7 サルコイドーシス	1.000	0.902	0.813	0.734	0.662	0.611	0.571	0.533	0.498	0.465	0.437	0.410	0.384	0.360
8 筋萎縮性側索硬化症	1.000	0.788	0.621	0.489	0.386	0.326	0.287	0.252	0.222	0.197	0.177	0.160	0.144	0.129
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	1.000	0.907	0.823	0.747	0.678	0.624	0.579	0.537	0.497	0.463	0.432	0.403	0.376	0.351
10 特発性血小板減少性紫斑病	1.000	0.849	0.721	0.613	0.521	0.459	0.411	0.368	0.329	0.298	0.271	0.246	0.223	0.203
11 結節性動脈周囲炎	1.000	0.880	0.778	0.689	0.612	0.562	0.518	0.477	0.440	0.405	0.371	0.340	0.311	0.285
12 潰瘍性大腸炎	1.000	0.930	0.865	0.805	0.749	0.708	0.677	0.646	0.617	0.592	0.570	0.549	0.529	0.510
13 大動脈炎症候群	1.000	0.913	0.834	0.763	0.697	0.656	0.620	0.587	0.555	0.528	0.507	0.487	0.468	0.449
14 ビュルガー病	1.000	0.934	0.873	0.815	0.762	0.721	0.686	0.653	0.621	0.592	0.565	0.539	0.514	0.491
15 天疱瘡	1.000	0.911	0.831	0.758	0.692	0.643	0.602	0.564	0.528	0.495	0.468	0.442	0.418	0.395
16 脊髄小脳変性症	1.000	0.880	0.775	0.682	0.601	0.538	0.484	0.436	0.393	0.356	0.327	0.301	0.276	0.254
17 クローン病	1.000	0.945	0.892	0.843	0.796	0.761	0.735	0.709	0.684	0.660	0.636	0.613	0.591	0.569
18 劇症肝炎	1.000	0.604	0.367	0.225	0.139	0.100	0.081	0.066	0.055	0.049	0.046	0.043	0.041	0.039
19 悪性関節リウマチ	1.000	0.872	0.761	0.664	0.579	0.514	0.458	0.408	0.363	0.321	0.278	0.241	0.209	0.181
20 パーキンソン病	1.000	0.878	0.771	0.677	0.595	0.528	0.470	0.418	0.372	0.330	0.291	0.258	0.228	0.201
21 アミロイドーシス	1.000	0.788	0.621	0.491	0.388	0.311	0.252	0.204	0.166	0.135	0.116	0.100	0.086	0.074
22 後縦靭帯骨化症	1.000	0.892	0.796	0.711	0.635	0.578	0.532	0.490	0.451	0.413	0.376	0.343	0.312	0.284
23 ハンチントン舞蹈病	1.000	0.850	0.723	0.614	0.522	0.441	0.372	0.313	0.264	0.222	0.188	0.160	0.135	0.115
24 ウィリス動脈輪閉塞症	1.000	0.940	0.884	0.831	0.781	0.741	0.703	0.667	0.633	0.602	0.571	0.542	0.514	0.488
25 ウエゲナー肉芽腫症	1.000	0.907	0.823	0.747	0.677	0.617	0.566	0.519	0.477	0.435	0.395	0.359	0.325	0.295
26 特発性拡張型心筋症	1.000	0.885	0.784	0.695	0.617	0.556	0.503	0.455	0.411	0.372	0.339	0.309	0.281	0.256

表3. 受給者の継続率(女), 疾患別

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(年)
1 ベーチエット病	1.000	0.951	0.904	0.860	0.818	0.788	0.761	0.735	0.710	0.687	0.666	0.646	0.626	0.607
2 多発性硬化症	1.000	0.930	0.864	0.804	0.748	0.707	0.671	0.636	0.603	0.573	0.543	0.516	0.489	0.464
3 重症筋無力症	1.000	0.942	0.888	0.837	0.789	0.754	0.723	0.694	0.665	0.638	0.614	0.591	0.568	0.547
4 全身性エリテマトーデス	1.000	0.956	0.914	0.874	0.835	0.806	0.780	0.756	0.732	0.708	0.686	0.665	0.644	0.625
5 スモン	1.000	0.942	0.888	0.837	0.789	0.756	0.726	0.698	0.670	0.646	0.623	0.601	0.580	0.559
6 再生不良性貧血	1.000	0.912	0.833	0.760	0.694	0.645	0.603	0.563	0.527	0.494	0.465	0.438	0.412	0.388
7 サルコイドーシス	1.000	0.937	0.879	0.824	0.772	0.732	0.696	0.662	0.629	0.599	0.572	0.546	0.521	0.497
8 筋萎縮性側索硬化症	1.000	0.763	0.583	0.446	0.341	0.283	0.245	0.212	0.184	0.163	0.148	0.135	0.123	0.112
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	1.000	0.939	0.882	0.829	0.778	0.738	0.702	0.669	0.637	0.606	0.576	0.547	0.520	0.494
10 特発性血小板減少性紫斑病	1.000	0.909	0.827	0.753	0.685	0.635	0.595	0.557	0.521	0.490	0.463	0.438	0.414	0.392
11 結節性動脈周囲炎	1.000	0.914	0.837	0.766	0.703	0.660	0.625	0.591	0.560	0.528	0.500	0.474	0.449	0.425
12 潰瘍性大腸炎	1.000	0.940	0.883	0.830	0.780	0.744	0.713	0.684	0.657	0.631	0.609	0.587	0.566	0.546
13 大動脈炎症候群	1.000	0.950	0.902	0.857	0.814	0.782	0.752	0.723	0.695	0.670	0.646	0.623	0.601	0.579
14 ビュルガー病	1.000	0.931	0.868	0.809	0.753	0.710	0.671	0.635	0.600	0.566	0.535	0.505	0.477	0.450
15 天疱瘡	1.000	0.927	0.860	0.797	0.739	0.694	0.653	0.616	0.580	0.546	0.513	0.482	0.453	0.426
16 脊髄小脳変性症	1.000	0.894	0.800	0.715	0.640	0.580	0.530	0.484	0.442	0.405	0.373	0.344	0.318	0.293
17 クローン病	1.000	0.946	0.894	0.846	0.800	0.766	0.738	0.710	0.684	0.660	0.639	0.618	0.598	0.578
18 劇症肝炎	1.000	0.683	0.470	0.325	0.226	0.180	0.155	0.135	0.118	0.109	0.105	0.100	0.096	0.093
19 悪性関節リウマチ	1.000	0.899	0.808	0.726	0.652	0.594	0.543	0.495	0.452	0.415	0.381	0.350	0.321	0.295
20 パーキンソン病	1.000	0.896	0.803	0.720	0.646	0.587	0.536	0.490	0.448	0.407	0.369	0.335	0.304	0.276
21 アミロイドーシス	1.000	0.808	0.654	0.530	0.430	0.371	0.331	0.294	0.262	0.238	0.223	0.208	0.195	0.182
22 後縦靭帯骨化症	1.000	0.909	0.827	0.752	0.684	0.633	0.593	0.555	0.520	0.486	0.454	0.425	0.397	0.372
23 ハンチントン舞蹈病	1.000	0.867	0.752	0.652	0.566	0.491	0.421	0.361	0.310	0.272	0.246	0.222	0.200	0.181
24 ウィリス動脈輪閉塞症	1.000	0.947	0.896	0.849	0.804	0.770	0.742	0.715	0.690	0.666	0.644	0.623	0.603	0.583
25 ウエゲナー肉芽腫症	1.000	0.923	0.852	0.786	0.726	0.683	0.646	0.612	0.579	0.546	0.509	0.475	0.443	0.413
26 特発性拡張型心筋症	1.000	0.894	0.801	0.718	0.644	0.589	0.542	0.500	0.460	0.427	0.409	0.391	0.374	0.358

表4. 新規受給者の継続率(男), 疾患別

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(年)
1 ベーチェット病	1.000	0.928	0.861	0.799	0.741	0.704	0.672	0.642	0.613	0.591	0.574	0.557	0.541	0.525
2 多発性硬化症	1.000	0.888	0.788	0.700	0.622	0.570	0.533	0.499	0.466	0.437	0.412	0.389	0.367	0.346
3 重症筋無力症	1.000	0.910	0.828	0.753	0.685	0.639	0.600	0.565	0.531	0.500	0.476	0.452	0.430	0.409
4 全身性エリテマトーデス	1.000	0.917	0.841	0.771	0.707	0.668	0.638	0.610	0.583	0.556	0.530	0.506	0.482	0.460
5 スモン	1.000	0.908	0.826	0.751	0.685	0.652	0.625	0.600	0.576	0.548	0.525	0.503	0.481	0.461
6 再生不良性貧血	1.000	0.853	0.728	0.622	0.531	0.473	0.428	0.388	0.351	0.322	0.297	0.274	0.252	0.233
7 サルコイドーシス	1.000	0.880	0.775	0.682	0.601	0.545	0.501	0.461	0.424	0.393	0.371	0.349	0.329	0.310
8 筋萎縮性側索硬化症	1.000	0.719	0.517	0.373	0.269	0.214	0.179	0.150	0.125	0.108	0.097	0.087	0.078	0.070
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	1.000	0.888	0.789	0.701	0.623	0.569	0.527	0.487	0.451	0.418	0.388	0.361	0.335	0.312
10 特発性血小板減少性紫斑病	1.000	0.812	0.660	0.536	0.436	0.375	0.333	0.296	0.263	0.238	0.216	0.197	0.179	0.163
11 結節性動脈周囲炎	1.000	0.864	0.747	0.646	0.558	0.512	0.480	0.451	0.423	0.398	0.376	0.355	0.335	0.316
12 潰瘍性大腸炎	1.000	0.910	0.828	0.753	0.686	0.641	0.609	0.580	0.551	0.528	0.511	0.495	0.479	0.463
13 大動脈炎症候群	1.000	0.900	0.810	0.729	0.657	0.613	0.573	0.536	0.501	0.477	0.463	0.449	0.435	0.422
14 ビュルガー病	1.000	0.911	0.831	0.757	0.690	0.652	0.621	0.592	0.564	0.539	0.518	0.498	0.479	0.461
15 天疱瘡	1.000	0.891	0.794	0.708	0.631	0.588	0.557	0.527	0.499	0.471	0.449	0.429	0.410	0.391
16 脊髄小脳変性症	1.000	0.865	0.749	0.649	0.562	0.497	0.441	0.391	0.347	0.312	0.287	0.264	0.242	0.223
17 クローン病	1.000	0.930	0.865	0.804	0.748	0.710	0.683	0.658	0.634	0.610	0.588	0.566	0.546	0.526
18 劇症肝炎	1.000	0.491	0.241	0.119	0.059	0.039	0.030	0.023	0.018	0.015	0.013	0.012	0.010	0.009
19 悪性関節リウマチ	1.000	0.847	0.718	0.609	0.517	0.452	0.397	0.350	0.308	0.277	0.242	0.212	0.185	0.162
20 パーキンソン病	1.000	0.870	0.757	0.659	0.573	0.508	0.453	0.404	0.361	0.322	0.289	0.259	0.233	0.209
21 アミロイドーシス	1.000	0.747	0.559	0.419	0.314	0.230	0.166	0.121	0.088	0.066	0.053	0.042	0.034	0.027
22 後縦靭帯骨化症	1.000	0.864	0.746	0.645	0.558	0.503	0.464	0.428	0.394	0.361	0.329	0.301	0.274	0.250
23 ハンチントン舞蹈病	1.000	0.879	0.773	0.679	0.597	0.504	0.421	0.352	0.296	0.251	0.219	0.191	0.166	0.144
24 ウィリス動脈輪閉塞症	1.000	0.921	0.848	0.781	0.720	0.679	0.641	0.604	0.570	0.542	0.516	0.491	0.468	0.445
25 ウェゲナー肉芽腫症	1.000	0.892	0.795	0.710	0.633	0.568	0.516	0.469	0.427	0.392	0.365	0.340	0.316	0.295
26 特発性拡張型心筋症	1.000	0.863	0.746	0.645	0.558	0.496	0.442	0.394	0.352	0.315	0.286	0.260	0.236	0.215

表5. 新規受給者の継続率(女)、疾患別

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(年)
1 ベーチェット病	1.000	0.930	0.865	0.805	0.749	0.714	0.688	0.662	0.637	0.614	0.596	0.577	0.560	0.542
2 多発性硬化症	1.000	0.914	0.835	0.764	0.699	0.657	0.620	0.584	0.551	0.524	0.501	0.479	0.457	0.437
3 重症筋無力症	1.000	0.919	0.845	0.776	0.713	0.675	0.645	0.617	0.590	0.567	0.548	0.530	0.512	0.495
4 全身性エリテマトーデス	1.000	0.940	0.884	0.832	0.782	0.751	0.727	0.704	0.681	0.659	0.641	0.623	0.605	0.588
5 スモン	1.000	0.896	0.803	0.719	0.645	0.605	0.573	0.543	0.514	0.490	0.469	0.450	0.431	0.413
6 再生不良性貧血	1.000	0.869	0.755	0.657	0.571	0.523	0.486	0.451	0.419	0.391	0.368	0.347	0.326	0.307
7 サルコイドーシス	1.000	0.924	0.853	0.788	0.728	0.687	0.653	0.622	0.591	0.565	0.541	0.519	0.497	0.477
8 筋萎縮性側索硬化症	1.000	0.702	0.494	0.347	0.244	0.190	0.156	0.127	0.104	0.090	0.082	0.075	0.069	0.063
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	1.000	0.922	0.850	0.784	0.723	0.682	0.653	0.624	0.597	0.569	0.540	0.513	0.488	0.464
10 特発性血小板減少性紫斑病	1.000	0.879	0.773	0.680	0.598	0.545	0.506	0.471	0.438	0.411	0.389	0.369	0.349	0.331
11 結節性動脈周囲炎	1.000	0.866	0.751	0.653	0.568	0.525	0.495	0.466	0.439	0.411	0.390	0.370	0.351	0.333
12 潰瘍性大腸炎	1.000	0.919	0.846	0.778	0.715	0.674	0.642	0.611	0.582	0.556	0.536	0.517	0.498	0.480
13 大動脈炎症候群	1.000	0.934	0.872	0.815	0.761	0.728	0.699	0.670	0.643	0.622	0.603	0.585	0.567	0.550
14 ビュルガー病	1.000	0.912	0.831	0.758	0.692	0.656	0.627	0.600	0.575	0.545	0.520	0.496	0.472	0.450
15 天疱瘡	1.000	0.910	0.828	0.753	0.686	0.641	0.600	0.562	0.527	0.492	0.460	0.430	0.401	0.375
16 脊髄小脳変性症	1.000	0.881	0.777	0.685	0.604	0.541	0.487	0.438	0.394	0.359	0.332	0.307	0.284	0.263
17 クローン病	1.000	0.923	0.852	0.787	0.727	0.687	0.659	0.631	0.605	0.583	0.566	0.550	0.535	0.520
18 劇症肝炎	1.000	0.538	0.292	0.160	0.089	0.062	0.050	0.041	0.035	0.031	0.031	0.031	0.031	0.031
19 悪性関節リウマチ	1.000	0.874	0.764	0.668	0.584	0.528	0.484	0.443	0.406	0.374	0.348	0.325	0.302	0.282
20 パーキンソン病	1.000	0.886	0.785	0.695	0.616	0.561	0.516	0.475	0.436	0.397	0.362	0.329	0.300	0.273
21 アミロイドーシス	1.000	0.759	0.576	0.437	0.332	0.274	0.235	0.202	0.174	0.154	0.137	0.121	0.107	0.095
22 後縦靭帯骨化症	1.000	0.880	0.776	0.684	0.603	0.554	0.517	0.483	0.451	0.419	0.391	0.365	0.341	0.318
23 ハンチントン舞蹈病	1.000	0.893	0.797	0.712	0.636	0.547	0.465	0.396	0.337	0.300	0.274	0.251	0.229	0.209
24 ウェリス動脈輪閉塞症	1.000	0.928	0.861	0.799	0.742	0.707	0.680	0.655	0.630	0.609	0.588	0.567	0.547	0.528
25 ウェゲナー肉芽腫症	1.000	0.878	0.771	0.677	0.595	0.556	0.535	0.515	0.495	0.467	0.427	0.389	0.355	0.324
26 特発性拡張型心筋症	1.000	0.870	0.757	0.660	0.576	0.522	0.479	0.439	0.403	0.378	0.361	0.345	0.329	0.315

表6. 医療受給者数の推計値(男), 年度別

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010(年)
1 ベーチェット病	10734	10786	10832	10873	11018	11190	11358	11522	11703	11894	12085	12276	12465
2 多発性硬化症	2396	2583	2761	2931	3116	3310	3505	3699	3900	4106	4311	4517	4722
3 重症筋無力症	3654	3799	3929	4045	4184	4322	4453	4575	4694	4810	4920	5025	5125
4 全身性エリテマトーデス	4586	4894	5196	5494	5827	6178	6534	6895	7260	7628	7998	8372	8748
5 スモン	483	506	529	553	583	614	648	682	718	756	794	833	874
6 再生不良性貧血	4065	4183	4268	4327	4407	4482	4546	4600	4656	4713	4762	4804	4839
7 サルコイドーシス	5572	6030	6464	6881	7349	7843	8329	8808	9283	9762	10241	10722	11202
8 筋萎縮性側索硬化症	3257	3462	3607	3719	3875	4051	4214	4368	4518	4671	4822	4971	5117
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	4941	5266	5569	5855	6167	6489	6806	7117	7432	7747	8057	8362	8662
10 特発性血小板減少性紫斑病	9454	10075	10620	11114	11706	12327	12939	13541	14166	14787	15403	16013	16617
11 結節性動脈周囲炎	1177	1246	1312	1375	1454	1534	1615	1696	1777	1857	1937	2018	2100
12 潰瘍性大腸炎	29343	32252	34739	36627	38196	39415	40260	40866	41385	41908	42389	42851	43307
13 大動脈炎症候群	394	398	401	404	414	424	434	443	452	463	474	485	495
14 ビュルガー病	9034	8799	8480	8084	7706	7297	6827	6301	5723	5108	4444	3734	2980
15 天疱瘡	1210	1289	1363	1434	1515	1600	1685	1771	1857	1948	2039	2129	2220
16 脊髄小脳変性症	8768	9224	9653	10063	10529	11005	11466	11912	12366	12847	13322	13792	14256
17 クローン病	11773	12862	13943	15020	16189	17439	18709	19998	21301	22614	23942	25284	26639
18 劇症肝炎	504	521	519	513	514	518	522	526	530	535	540	544	548
19 悪性関節リウマチ	1353	1419	1477	1530	1589	1647	1702	1755	1803	1844	1886	1927	1969
20 バーキンソン病	21097	22983	24815	26607	28472	30345	32211	34069	35895	37694	39497	41300	43100
21 アミロイドーシス	376	406	431	451	470	487	501	514	527	541	554	567	580
22 後縦靭帯骨化症	10205	9659	9173	8743	8477	8311	8170	8050	7928	7799	7692	7606	7537
23 ハンチントン舞蹈病	248	253	259	265	270	275	278	282	284	287	290	292	295
24 ウィリス動脈輪閉塞症	2624	2799	2966	3126	3295	3464	3630	3793	3955	4115	4274	4433	4590
25 ウェゲナー肉芽腫症	358	387	414	441	467	494	520	546	570	594	618	642	666
26 特発性拡張型心筋症	7564	8296	9011	9715	10469	11231	11992	12752	13513	14288	15065	15845	16625
合計	155168	164375	172733	180190	188257	196291	203853	211082	218201	225316	232359	239344	246276

(人)

表7. 医療受給者数の推計値(女), 年度別

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010(年)
1 ベーチェット病	5329	5678	5953	6163	6356	6511	6621	6688	6720	6717	6676	6600	6488
2 多発性硬化症	5152	5522	5874	6212	6590	6972	7349	7719	8087	8451	8814	9177	9539
3 重症筋無力症	8159	8542	8879	9178	9515	9854	10174	10476	10759	11042	11313	11572	11818
4 全身性エリテマトーデス	42531	44127	45632	47064	48728	50461	52170	53854	55499	57155	58792	60412	62012
5 スモン	1573	1569	1558	1541	1538	1532	1524	1512	1500	1486	1469	1450	1428
6 再生不良性貧血	5911	6151	6332	6467	6630	6785	6923	7044	7159	7269	7367	7453	7528
7 サルコイドーシス	11861	12755	13636	14509	15461	16444	17439	18444	19467	20516	21577	22648	23729
8 筋萎縮性側索硬化症	2027	2168	2275	2363	2481	2609	2730	2845	2962	3084	3207	3328	3449
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	21324	22630	23888	25110	26430	27812	29206	30609	32002	33393	34783	36170	37554
10 特発性血小板減少性紫斑病	21683	23115	24395	25554	26855	28198	29504	30774	32047	33354	34643	35914	37168
11 結節性動脈固着炎	1543	1655	1756	1847	1953	2063	2172	2280	2385	2491	2597	2703	2808
12 潰瘍性大腸炎	28498	31058	33299	35070	36604	37801	38657	39280	39785	40258	40684	41089	41487
13 大動脈炎症候群	4613	4586	4521	4422	4329	4212	4068	3903	3752	3614	3484	3360	3241
14 ビュルガー病	9227	9217	9149	9032	8955	8873	8756	8607	8428	8234	8012	7764	7491
15 天疱瘡	1832	1937	2033	2121	2216	2311	2402	2490	2573	2650	2725	2796	2864
16 脊髄小脳変性症	8473	9055	9617	10166	10768	11386	11995	12594	13196	13816	14436	15058	15679
17 クローン病	5328	5743	6147	6544	6979	7437	7900	8366	8841	9331	9828	10332	10842
18 劇症肝炎	467	479	471	457	451	448	444	440	437	436	435	433	431
19 悪性関節リウマチ	4148	4222	4273	4308	4360	4408	4449	4485	4523	4557	4588	4616	4640
20 パーキンソン病	31033	33916	36746	39549	42556	45662	48805	51979	55109	58245	61389	64538	67689
21 アミロイドーシス	471	501	524	544	571	600	628	655	683	712	741	768	795
22 後縦靭帯骨化症	6197	6698	7156	7583	8040	8528	9011	9487	9948	10405	10856	11302	11743
23 ハンチントン舞踏病	275	286	298	310	323	334	344	354	365	378	390	403	415
24 ウィリス動脈輪閉塞症	4625	4959	5288	5613	5974	6355	6743	7135	7537	7950	8367	8787	9211
25 ウェゲナー肉芽腫症	418	439	456	471	487	504	521	537	552	564	574	584	592
26 特発性拡張型心筋症	2905	3163	3413	3659	3929	4212	4497	4785	5083	5418	5756	6099	6445
合計	235603	250169	263570	275856	289077	302316	315030	327339	339399	351525	363504	375354	387087

(人)

表8. 医療受給者数の推計値(男女計), 年度別

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010(年)
1 ベーチェット病	16063	16464	16785	17036	17373	17701	17979	18210	18423	18611	18761	18875	18953
2 多発性硬化症	7548	8105	8635	9142	9706	10282	10853	11419	11987	12557	13126	13694	14261
3 重症筋無力症	11813	12341	12808	13222	13699	14176	14627	15051	15453	15852	16233	16596	16943
4 全身性エリテマトーデス	47117	49021	50829	52557	54555	56639	58704	60749	62759	64782	66791	68784	70760
5 スモン	2056	2075	2087	2094	2120	2147	2171	2194	2218	2241	2263	2283	2302
6 再生不良性貧血	9976	10334	10600	10794	11036	11267	11469	11644	11816	11983	12129	12257	12367
7 サルコイドーシス	17433	18785	20100	21390	22810	24287	25768	27253	28750	30278	31818	33370	34932
8 筋萎縮性側索硬化症	5284	5630	5882	6082	6356	6660	6944	7213	7480	7756	8029	8299	8566
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	26266	27896	29457	30965	32597	34301	36011	37726	39434	41141	42840	44532	46216
10 特発性血小板減少性紫斑病	31136	33189	35015	36668	38561	40526	42443	44315	46213	48141	50046	51927	53784
11 結節性動脈周囲炎	2720	2901	3068	3223	3407	3597	3787	3976	4162	4348	4534	4721	4908
12 潰瘍性大腸炎	57841	63309	68038	71697	74800	77217	78918	80146	81170	82167	83074	83940	84793
13 大動脈炎症候群	5007	4984	4923	4827	4743	4636	4501	4345	4204	4077	3958	3845	3737
14 ビュルガー病	18261	18016	17629	17116	16662	16170	15584	14908	14151	13341	12456	11498	10472
15 天疱瘡	3042	3226	3396	3555	3731	3911	4088	4261	4430	4598	4763	4925	5084
16 脊髄小脳変性症	17240	18279	19270	20230	21297	22392	23461	24507	25562	26663	27759	28850	29934
17 クローン病	17101	18605	20090	21563	23168	24876	26609	28364	30143	31945	33769	35616	37481
18 劇症肝炎	971	999	990	970	964	965	966	965	968	972	975	977	979
19 悪性関節リウマチ	5501	5641	5750	5838	5949	6054	6151	6240	6326	6402	6474	6543	6609
20 パーキンソン病	52130	56899	61561	66157	71028	76007	81016	86047	91004	95939	100886	105838	110789
21 アミロイドーシス	847	907	955	995	1041	1087	1130	1169	1209	1253	1295	1335	1375
22 後縦靭帯骨化症	16403	16357	16330	16326	16517	16840	17180	17537	17877	18204	18548	18908	19280
23 ハンチントン舞踏病	522	539	557	575	593	609	623	636	650	665	680	695	710
24 ウェリス動脈輪閉塞症	7248	7758	8254	8739	9269	9819	10372	10928	11493	12065	12641	13220	13801
25 ウェゲナー肉芽腫症	776	826	871	912	954	998	1041	1082	1122	1158	1192	1225	1258
26 特発性拡張型心筋症	10469	11459	12424	13374	14398	15443	16489	17536	18597	19706	20822	21944	23070
合計	390771	414545	436303	456046	477334	498607	518883	538420	557601	576841	595862	614698	633363

(人)

医療受給者の経年変化 — 性比の推移に関する検討 —

瀧上 博司、仁科 基子、太田 晶子、柴崎 智美、
永井 正規（埼玉医科大学・公衆衛生学）

要 約

過去4回行われた医療受給者全国調査結果を用いて、医療受給者の性比の変化について検討した。この結果、受給者の多くを占める年齢階級で観察すると、医療受給者の性比が年次を追うに従って増大しているのは、新規受給者の性比が全受給者の性比よりも大きい状態が継続しているためであると考えられた。また、性別継続率は男の継続率が女よりも低く、性比を下げる方向に作用しているが、受給者数が年々増加しているため影響は小さいとみなされた。全受給者の性比の増大が認められた7疾患でも同様のことが観察されたが、天疱瘡を除く6疾患の一部の年齢階級では新規受給者の性比が年次を追うに従って増大している状態も観察されたため、これが男の罹患率が増加したことによるものかを今後検討する必要がある。

キーワード：特定疾患、全国調査、医療受給者、性比

目 的

特定疾患治療研究事業では、対象疾患に罹患した患者が申請により医療費の自己負担分を公費で補助する制度がある。特定疾患の疫学に関する研究班では、受給者の実態を把握する目的で、受給者証の交付を受けた全ての患者を対象とした医療受給者全国調査を4回（1984年度、1988年度、1992年度、1997年度）実施し、基本的集計、受療動向に関する集計を報告してきた。この結果、全疾患を合計した医療受給者の性比は年度を追うに従って大きくなっていることが観察されている¹⁾。本研究の目的は、医療受給者の性比が増大していることに着目して、受給者の経年変化の特徴を示すことである。

方 法

資料は過去4回行われた医療受給者全国調査結果を用いた^{2)・5)}。各年度の

受給者数（性比：男／女）は84年度の104,771人（0.47）から、88年度は173,637人（0.57）、92年度は247,726人（0.60）、97年度には399,719人（0.66）に達している（表1）。

まず、全受給者の性比を年齢階級別に示し、性比の増大と年齢の関係を検討した。また、有病率は罹患率と有病期間の積で表現されることから、新規受給者の性比の変化と受給者の継続状況の性差についても検討した。新規受給者の性比の変化は、全受給者と同様に性比の増大と年齢との関係を年度別に検討した。受給者の継続状況の性差は、昨年度の研究⁶⁾で行った医療受給者の継続状況を再度、性別に計算することで比較した。さらに、全受給者の性比の増大が観察された疾患（潰瘍性大腸炎、天疱瘡、クローン病、悪性関節リウマチ、後縦靭帯骨化症、ウエゲナー肉芽腫症、特発性拡張型心筋症の7疾患）については疾患毎に同様の観察を行い、性比が増大した背景を検討

表1. 年度別受給者の性比(男/女), 疾患別

疾患名	1984年	1988年	1992年	1997年
全受給者	0.47	0.57	0.60	0.66
1 ベーチェット病	0.63	0.72	0.73	0.74
2 多発性硬化症	0.37	0.44	0.46	0.46
3 重症筋無力症	0.37	0.42	0.43	0.45
4 全身性エリテマトーデス	0.07	0.08	0.09	0.10
5 スモン	0.28	0.29	0.29	0.29
6 再生不良性貧血	0.64	0.71	0.72	0.70
7 サルコイドーシス	0.32	0.41	0.44	0.46
8 筋萎縮性側索硬化症	1.44	1.59	1.73	1.62
9 強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	0.18	0.22	0.22	0.23
10 特発性血小板減少性紫斑病	0.45	0.46	0.44	0.44
11 結節性動脈周囲炎	0.81	0.75	0.75	0.78
12 潰瘍性大腸炎	0.68	0.88	0.95	1.02
13 大動脈炎症候群	0.07	0.07	0.07	0.08
14 ビュルガー病	7.82	8.49	7.99	7.72
15 天疱瘡	0.48	0.58	0.60	0.66
16 脊髄小脳変性症	1.03	1.07	1.06	1.05
17 クロウン病	1.47	1.79	2.06	2.18
18 劇症肝炎	0.94	0.98	0.97	1.07
19 悪性関節リウマチ	0.17	0.22	0.26	0.32
20 パーキンソン病	0.65	0.67	0.66	0.68
21 アミロイドーシス	0.75	0.89	0.88	0.78
22 後縦靭帯骨化症	1.38	1.73	1.76	1.92
23 ハンチントン舞踏病	1.14	0.88	0.85	0.92
24 ウィリス動脈輪閉塞症	0.60	0.61	0.58	0.57
25 ウェゲナー肉芽腫症	0.61	0.75	0.76	0.83
26 特発性拡張型心筋症	1.88	2.32	2.49	2.58
27 シャイ・ドレーガー症候群		2.61	3.31	2.82
28 表皮水疱症		1.08	0.96	0.92
29 膿疱性乾癬		0.91	0.88	0.97
30 広範脊柱管狭窄症		5.33	2.55	2.51
31 原発性胆汁性肝硬変			0.11	0.12
32 重症急性膵炎			2.81	2.65
33 特発性大腿骨頭壊死症			2.50	1.99
34 混合性結合組織病			0.07	0.09
35 原発性免疫不全症候群				2.14
36 特発性間質性肺炎				1.78
37 網膜色素変性症				0.77
38 クロイツフェルト・ヤコブ病				0.52
39 原発性肺高血圧症				0.35

した。

結 果

1. 性比の年次変化 (表2)

(1) 全疾患

全受給者の性比は年次を追うに従って増大している。新規受給者の性比は何れの年次も全受給者の性比よりも大きい値であるが、ほぼ横ばいで0.80程

度であった。年齢階級別にみると、全受給者では10歳代から60歳代では年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。新規受給者では、20歳代、30歳代では年次を追うに従って性比の増大傾向を認めるが、他の年齢階級では一定の傾向は認めなかった。

(2) 疾患別

① 潰瘍性大腸炎

全受給者では30歳代から60歳代で年

次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。新規受給者では60歳代では年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めたが、30歳代から50歳代ではほぼ横ばいであった。

②天疱瘡

全受給者では30歳代から50歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。新規受給者では何れの年代も性比の増減に一定の傾向は認められなかった。

③クローン病

全受給者では20歳代から60歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。新規受給者では20歳代、30歳代では年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めたが、40歳代から60歳代では一定の傾向を認めなかった。

④悪性関節リウマチ

全受給者では20歳代から60歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。新規受給者では40歳代から70歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めたが、増大の程度は小さかった。

⑤後縦靭帯骨化症

全受給者では30歳代から60歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。また、80歳代では年次を追うに従って性比が低下していた。新規受給者では1988年度は何れの年齢も性

比が極めて小さかったが、30歳代から50歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。

⑥ウエゲナー肉芽腫症

全受給者では40歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めたが、他の年齢階級では明らかな特徴は認めなかった。新規受給者では、30歳代から50歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。

⑦特発性拡張型心筋症

全受給者では20から30歳代及び50歳代から70歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。新規受給者では、10歳代から30歳代及び60歳代で年次を追うに従って性比が増大する傾向を認めた。

2. 全受給者の性別継続率（表3）

(1)全疾患

男の継続率が女よりも低く、継続者がおよそ半分に減少する年数は男が8年であるのに対して女は12年であった。

(2)疾患別

クローン病では男女の継続率はほぼ等しかったが、他の6疾患（潰瘍性大腸炎、天疱瘡、悪性関節リウマチ、後縦靭帯骨化症、ウエゲナー肉芽腫症、特発性拡張型心筋症）では、いずれも男の継続率が女の継続率よりも低かった。

表2. 年齢階級別受給者性比の年次変化、全受給者・新規受給者別、疾患別

全疾患 年齢	全受給者				新規受給者			
	1984年	1988年	1992年	1997年	1984年	1988年	1992年	1997年
0-9	1.03	1.07	1.02	1.14	0.99	1.14	1.07	1.22
10-19	0.70	0.71	0.75	0.82	0.83	0.80	0.78	0.92
20-29	0.47	0.62	0.70	0.77	0.57	0.79	0.83	0.89
30-39	0.33	0.47	0.57	0.68	0.69	0.66	0.74	0.88
40-49	0.37	0.46	0.50	0.60	0.75	0.67	0.72	0.81
50-59	0.47	0.57	0.55	0.57	0.92	0.81	0.76	0.81
60-69	0.54	0.61	0.67	0.69	0.83	0.82	0.80	0.89
70-79	0.71	0.68	0.60	0.66	0.82	0.80	0.76	0.79
80-	0.54	0.68	0.60	0.57	0.60	0.65	0.71	0.65
合計	0.47	0.57	0.60	0.66	0.78	0.78	0.78	0.85
12 潰瘍性大腸炎								
0-9	1.32	0.91	0.94	0.83	1.13	1.15	1.19	0.53
10-19	1.23	1.33	1.44	1.29	1.59	1.59	1.47	1.42
20-29	1.08	1.19	1.19	1.20	1.20	1.25	1.26	1.26
30-39	0.58	0.90	1.02	1.08	1.32	1.06	1.08	1.13
40-49	0.52	0.74	0.85	1.01	1.10	0.92	0.87	1.23
50-59	0.46	0.68	0.76	0.82	0.97	0.93	1.01	0.91
60-69	0.44	0.63	0.76	0.92	0.72	0.85	1.06	1.25
70-79	0.70	0.60	0.64	0.87	0.67	0.78	0.73	1.14
80-	2.00	1.00	0.78	0.65	—	0.17	1.83	0.42
合計	0.68	0.88	0.95	1.02	1.17	1.10	1.11	1.18
15 天疱瘡								
0-9	1.50	0.00	1.00	—	—	0.00	—	—
10-19	1.00	1.00	1.25	1.25	1.00	—	4.00	—
20-29	0.64	0.76	0.46	0.71	0.44	3.00	0.00	1.00
30-39	0.39	0.57	0.55	0.69	0.76	0.57	0.63	1.13
40-49	0.34	0.46	0.53	0.61	0.81	0.80	0.60	0.71
50-59	0.45	0.55	0.58	0.60	0.84	0.71	0.57	0.76
60-69	0.58	0.63	0.69	0.63	1.15	0.79	0.64	1.12
70-79	1.00	0.77	0.59	0.79	0.83	0.62	0.40	1.00
80-	0.40	1.00	0.63	0.64	1.00	0.33	0.60	0.67
合計	0.48	0.58	0.60	0.66	0.84	0.36	0.57	0.90
17 クロウン病								
0-9	2.67	2.00	1.63	2.20	1.50	5.00	—	3.50
10-19	1.80	1.96	1.94	1.94	2.08	2.17	1.98	2.27
20-29	2.14	2.34	2.56	2.62	2.26	3.01	3.37	2.94
30-39	1.32	1.88	2.65	2.85	2.08	2.42	3.39	3.09
40-49	1.01	1.36	1.43	1.99	1.94	1.47	1.05	1.93
50-59	0.60	1.01	1.12	1.10	0.77	1.38	1.48	0.90
60-69	0.66	0.70	1.02	1.09	0.75	0.62	1.35	1.13
70-79	0.33	0.84	0.69	0.73	0.00	0.86	0.54	0.77
80-	0.00	1.00	2.67	0.34	—	0.00	1.00	0.30
合計	1.47	1.79	2.06	2.18	1.92	2.22	2.45	2.35

表2. 年齢階級別受給者性比の年次変化, 全受給者・新規受給者別, 疾患別(つづき)

年齢	全受給者				新規受給者			
	1984年	1988年	1992年	1997年	1984年	1988年	1992年	1997年
19 悪性関節リウマチ								
0-9	2.00	0.50	—	0.00	2.00	—	—	0.00
10-19	0.67	0.27	1.25	0.33	0.33	0.25	—	—
20-29	0.16	0.25	0.35	0.34	0.14	0.38	0.13	0.33
30-39	0.07	0.17	0.17	0.30	0.14	0.24	0.12	0.32
40-49	0.10	0.14	0.18	0.29	0.19	0.31	0.33	0.37
50-59	0.18	0.21	0.21	0.26	0.36	0.28	0.38	0.44
60-69	0.22	0.25	0.32	0.34	0.41	0.35	0.39	0.55
70-79	0.42	0.32	0.30	0.38	0.38	0.38	0.45	0.53
80-	0.00	1.25	0.29	0.30	0.00	1.00	0.00	0.19
合計	0.17	0.22	0.26	0.32	0.31	0.31	0.36	0.47
22 後縦靭帯骨化症								
0-9	—	0.00	0.00	—	—	—	0.00	—
10-19	—	—	—	0.00	—	—	—	—
20-29	—	2.00	—	0.50	—	0.50	—	0.25
30-39	0.91	1.64	2.10	2.12	1.14	0.50	1.80	3.15
40-49	0.93	1.37	1.60	1.69	1.28	0.58	2.05	1.86
50-59	1.15	1.49	1.43	1.56	1.62	0.45	1.83	2.14
60-69	1.82	1.92	2.01	2.08	2.55	0.49	2.31	2.43
70-79	7.30	2.69	1.92	2.11	6.80	0.33	2.11	2.50
80-	—	5.00	2.73	2.23	—	0.44	3.17	2.03
合計	1.38	1.73	1.76	1.92	1.83	0.47	2.07	2.27
25 ウェゲナー肉芽腫症								
0-9	—	1.00	—	—	—	—	—	—
10-19	1.50	0.67	0.67	0.70	1.00	0.00	3.00	—
20-29	0.80	0.80	0.58	0.56	1.50	0.50	1.25	1.75
30-39	0.64	0.97	1.09	0.80	0.80	0.43	1.20	1.57
40-49	0.39	0.82	0.84	1.00	0.43	0.70	0.50	1.00
50-59	0.59	0.58	0.54	0.88	0.60	0.78	0.79	1.15
60-69	0.70	0.71	0.85	0.82	0.67	0.55	1.63	0.82
70-79	—	0.50	0.73	0.71	—	0.00	0.67	0.55
80-	—	—	—	0.80	—	—	—	—
合計	0.61	0.75	0.76	0.83	0.67	0.55	1.00	1.05
26 特発性拡張型心筋症								
0-9	1.00	0.68	1.29	0.73	0.85	0.83	0.75	0.47
10-19	1.09	1.30	1.06	1.34	0.85	1.40	1.14	2.00
20-29	1.08	2.86	2.74	3.57	3.25	3.57	2.67	4.33
30-39	1.12	1.88	2.74	3.85	1.04	2.23	3.63	4.87
40-49	1.04	3.40	3.42	3.27	2.80	2.74	4.34	3.18
50-59	1.13	2.68	3.07	3.26	2.49	2.65	3.97	3.09
60-69	1.25	2.18	2.06	2.39	1.86	1.94	2.34	2.75
70-79	1.00	1.33	1.84	1.77	—	1.44	1.95	1.43
80-	—	1.00	2.00	1.02	—	1.00	—	1.20
合計	1.12	2.32	2.49	2.58	1.95	2.29	3.01	2.72

表3. 受給者の性別継続率, 疾患別

	継続年数													
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13(年)
全疾患														
男	1.00	0.91	0.82	0.74	0.67	0.62	0.58	0.54	0.51	0.47	0.45	0.42	0.4	0.37
女	1.00	0.93	0.87	0.81	0.75	0.71	0.68	0.64	0.61	0.58	0.56	0.53	0.51	0.49
12 潰瘍性大腸炎														
男	1.00	0.93	0.87	0.81	0.75	0.71	0.68	0.65	0.62	0.59	0.57	0.55	0.53	0.51
女	1.00	0.94	0.88	0.83	0.78	0.74	0.71	0.68	0.66	0.63	0.61	0.59	0.57	0.55
15 天疱瘡														
男	1.00	0.91	0.83	0.76	0.69	0.64	0.60	0.56	0.53	0.49	0.47	0.44	0.42	0.40
女	1.00	0.93	0.86	0.80	0.74	0.69	0.65	0.62	0.58	0.55	0.51	0.48	0.45	0.43
17 クロウン病														
男	1.00	0.94	0.89	0.84	0.80	0.76	0.73	0.71	0.68	0.66	0.64	0.61	0.59	0.57
女	1.00	0.95	0.89	0.85	0.80	0.77	0.74	0.71	0.68	0.66	0.64	0.62	0.60	0.58
19 悪性関節リウマチ														
男	1.00	0.87	0.76	0.66	0.58	0.51	0.46	0.41	0.36	0.32	0.28	0.24	0.21	0.18
女	1.00	0.90	0.81	0.73	0.65	0.59	0.54	0.50	0.45	0.41	0.38	0.35	0.32	0.30
22 後縦靭帯骨化症														
男	1.00	0.89	0.80	0.71	0.63	0.58	0.53	0.49	0.45	0.41	0.38	0.34	0.31	0.28
女	1.00	0.91	0.83	0.75	0.68	0.63	0.59	0.56	0.52	0.49	0.45	0.42	0.40	0.37
25 ウェゲナー肉芽腫症														
男	1.00	0.91	0.82	0.75	0.68	0.62	0.57	0.52	0.48	0.44	0.40	0.36	0.33	0.30
女	1.00	0.92	0.85	0.79	0.73	0.68	0.65	0.61	0.58	0.55	0.51	0.47	0.44	0.41
26 特発性拡張型心筋症														
男	1.00	0.89	0.78	0.70	0.62	0.56	0.50	0.45	0.41	0.37	0.34	0.31	0.28	0.26
女	1.00	0.89	0.80	0.72	0.64	0.59	0.54	0.50	0.46	0.43	0.41	0.39	0.37	0.36

注: 男女共に84年度、88年度、92年度受給者の継続率の平均を用いた。

考 察

全疾患で全受給者の性比が年次を追うに従って増大しているのは、受給者の多くを占める年齢階級で観察すると、新規受給者の性比が全受給者の性比よりも大きい状態が継続しているためであると考えられた。また、性別継続率は男の継続率が女よりも低く、性比を下げる方向に作用しているが、年々受給者数が増加しているため影響は小さいとみなされた。

年齢階級別では、新規受給者の性比が20歳代、30歳代で年次を追うに従って増大しているが、これはこの年齢層の主要疾患である潰瘍性大腸炎、クローン病等、比較的性比の大きな疾患の

全受給者に占める割合が次第に増加しているためと考えられる。例えば、潰瘍性大腸炎は1984年には20歳代で18.3%、30歳代で11.9%であったのが、1988年にはそれぞれ23.7%と16.3%、1992年には25.9%と21.1%、1997年には28.3%と26.0%に増加している。同様にクローン病は1984年に20歳代で7.9%、30歳代で2.4%であったのが、1988年にはそれぞれ11.4%と4.4%、1992年には14.4%と7.3%、1997年には15.2%と9.9%に増加している。

疾患別に性比が増大している背景を検討すると、全疾患の場合と同様に受給者が多数を占める年齢階級では新規受給者の性比が全受給者の性比よりも大きい状態が継続しているためと考えられる。疾患別継続率の分析でもクロ